

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成29年11月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 診療情報管理士の業務範囲の拡大と国際統計分類群

中川原 譲二

国立循環器研究センター 循環器病統合イメージングセンター長

現在、日本診療情報管理学会では、「診療情報管理士の業務指針」の見直しが検討されています。その背景には、わが国における診療情報の電子化の進展と医療・介護連携の推進などに伴う診療情報管理士の業務範囲の拡大があります。診療情報管理士の業務を、①診療記録の速やかな完成業務、②診療記録の安全・確実な保管・管理業務、③診療情報の活用のためのデータ整理業務、④医療の質・安全向上のためのデータ活用業務、⑤診療記録の提供に関わる業務、等に分類しますと、急性期病院では、③、④の領域が爆発的に拡大しつつあります。特に③の領域では、ICD コーディング、DPC 関連業務に加え、がん登録などの大規模な疾病レジストリ業務や院内 DB の構築などが業務範囲として拡大しつつあるのが現状です。また、④の領域では、各種臨床評価指標の分析のためのデータ抽出、クリニカル・パスや有害事象の集計・統計処理などが、重要な業務として位置づけられつつあります。

更に、ICD コーディングのみが疾病・健康管理の主要な軸として考えられてきた時代はすでに終わり、国際的には、WHO が提唱する「国際統計分類群 (ファミリー): WHO-FIC」という概念が、疾病・健康管理の主要な軸となる分類群として認識されつつあります。WHO-FIC の中心分類には、ICD (国際疾病分類) とともに、ICF (国際生活機能分類)、ICHI (医療行為の分類) が位置づけられ、これらを相互に関連づけてコーディングすることが重要とされています。特に ICF コーディングについては、医療・介護・福祉の連携強化や地域包括ケアシステムの確立が見込まれるわが国の現状において、退院後の患者の「生活機能」を共通の尺度で分類し、地域包括ケアシステムの充足度を客観的に評価する指標を得るために必要であり、その普及が課題となっています。

診療情報管理士の業務範囲の拡大は、言わば急性期医療の質の向上に伴う縦方向への拡大と急性期医療と在宅医療・介護の連携に伴う横方向への拡大とからなりますが、自らの立ち位置がいずれにあっても、診療情報の有機的な活用のためには、WHO-FIC の中心分類コーディングが業務の基礎になります。診療情報管理士通信教育受講生の皆さんには、診療情報を統括する専門職をめざして、あらためて WHO-FIC の中心分類や ICD-O、ICD-NA などの派生分類、関連分類などの意義を確認し、それぞれの分類コーディングに精通することが求められます。

